

# Appalachian Air ④御嶋真珠稲荷例大祭

Appalachian Mountains (アパラチア山脈) は、カナダとアメリカ合衆国の東北部に延びる大きな山脈です。昨年の7月にアパラチア山脈のあるアメリカ合衆国・ノースカロライナ州からやって来た Stefan 国際交流員のコラムです。



It is said that a fox god who protects against storms lives in the Inari Shinju Shrine on Oshima Island. I love old legends like this so I was really excited to be invited to the annual festival. It is held every year on March 15th.

雄島の稲荷真珠神社には、嵐から船を護る狐の神様が宿っていると言われてます。私は、このような古くからの言い伝えが大好きなので、例大祭に誘われてワクワクしていました。例大祭は、毎年3月15日に開催されます。

During the festival some of the monks from Zuiganji Temple chanted sutras and offered incense. I thought about how many Japanese people I have met are uneasy around sutra recitation outside of ceremonial occasions and how so often temples smell like sandalwood incense. Coming from a place where neither is common, I have completely different associations with those things.

祭典中は瑞巖寺の僧侶たちがお経を唱えたり、線香をあげたりしていました。私がお経を唱えたりして、日本人は、冠婚葬祭以外にお経を聴いたり、線香の香りがすると不安になったりするようです。お経も線香も一般的ではない所から来た私は、それに関して全く違うイメージを持っています。

Because I was going to cover the festival I took pictures as the monks chanted. I hoped that they were indifferent to me taking pictures of an intimate moment like that; after all, it is a ceremony. I noticed the name board of the shrine in one of my photos. The character for *shin* is actually an antiquated version wherein the modern version is affixed to the left-hand 'jewel' radical. I could not for the life of me find that character on the computer and gave up with a 'Bless it.' English words, pronunciations, and grammar change over time but it is not nearly as common for the characters to change. I could type Shakespearean English in Microsoft Word if I wanted.

私は例大祭の取材のために参加したので、僧侶たちがお経を唱えている写真を撮りました。式典は厳粛な場なので、私の撮影が式典の妨げとならないよう心がけました。写真を撮っていると、神社の名称が書いてある札があることに気がつきました。札にある「しん」と読む字が、左側の主偏に現代の「真」を付けた旧字でした。いくら探しても、コンピューターには出てこなかったもので、「しょうがない」と諦めました。時代が変わるとともに、英語の言葉も発音も文法も変わりますが、普通、アルファベットが変化することはありません。マイクロソフトワードで作家のシェイクスピアのような古典的な書き方でも入力できます。

After the festival I was invited to eat fried tofu, which is apparently the favorite food of fox spirits, and drink with the other participants. I wanted to so badly, but since I was working I thought, 'Even though this would be okay in America I might get in trouble here.' I am still wondering what other stories the monks may have had to tell.

例大祭が終わってから、狐の神様が大好きなものだという油揚げを他の参加者と食べ、一緒に酒を勧めてもらいました。仕事なので「アメリカだったら大丈夫だけど、日本にいるから罰が当たるな」と思い飲まずじまいでした。僧侶の皆さんが知っている物語はどんなストーリーだろうと今でも考えます。



## 歴史文化基本構想が策定されました

広報まつしま1月号でご紹介した「松島町歴史文化基本構想」が3月に策定されました。町の文化や関連するものとグループで捉え、所有者と行政だけでなく、地域住民や学識者、関連団体と議論しながら「保存活用計画」を策定することでその在り方を考えていきます。

- 構想の閲覧方法
  - ①松島町役場2F 教育委員会生涯学習班 窓口
  - ②松島町ホームページ
- 問合せ先 教育委員会生涯学習班
 

☎354-5714

## 「政宗が育んだ“伊達”な文化」を活用した地域活性化戦略研修会を開催しました

2月26日、日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」を松島の観光に活用するための勉強会を開催し、観光ガイドや「伊達”な文化」に関心を持つ29人が参加しました。

研修会では、講師の太刀川英輔氏（NOSIGNER 代表）による「日本遺産がある町のブランディング」をテーマにした講演の後、参加者のグループワークを取り入れ、「どうすれば松島をもっと魅力的な町にできるか」「町のブランド化のために、自分ができることは何か」を考えました。

今後も町民の皆さんと協力して、「政宗が育んだ“伊達”な文化」を活用した松島や宮城の魅力発信事業に取り組んでいきます。



▲講演会の様子 ▲グループワークの様子

## 文化財で見る松島の歴史

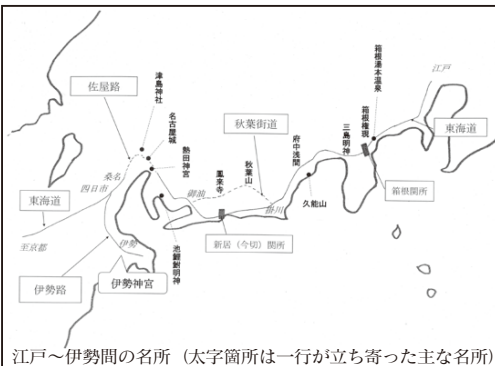
「幡谷五人衆、伊勢へ参る③」

天保14年（1843）12月22日、江戸に入った一行は、案内業者を活用して浅草寺、上野、湯島天神、神田明神など江戸の鉄板コースを巡りました。当時の旅日記は、家族や地域社会への報告書的な役割を担っていたとされ、吉原などの遊郭見物の記載はあえて伏せられることが多いといいますが、この史料では江戸見物の一箇所に吉原見物をしたことが書かれています。筆者である清治さんは、正直な人柄だったのかもかもしれません。

江戸の後、東海道へ出た一行はここでも主要道路から離れ、秋葉街道を迂回します。立ち寄った秋葉山（静岡県周智郡）は火伏せの神として知られ、松島町内でも信仰されていました（広報まつしま平成27年9月号参照）。秋葉神社では白木作りの二重の塔をはじめとする石塔・木塔などが「数多」あること、「御普請結構」（＝建物の様子が素晴らしい）であることなどが綴られています。東海道以降の道中でこうした見物した建物の様子や感想が書かれるようになることも特筆すべき点です。

江戸時代の旅は「道中先を急がず、行く先々で非日常の世界（＝異文化世界）を堪能するというもの」。清治ら幡谷五人衆もより多くの異文化に貪欲に接触しながら、伊勢神宮を目指します。

（参考）桜井邦夫「近世における東北地方からの旅」（『駒沢史学34』）、谷釜尋徳「近世後期における伊勢参宮の旅のルートと名所見物―江戸近郊地の庶民の場合一」（『日本体育大学紀要35巻2号』）（学芸員・本木）



江戸～伊勢間の名所（太字箇所は一行が立ち寄った主な名所）